



Japan Society of Civil Engineers

International Activities Center

## 国際センター通信 (No.19)

### 世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ 第1回シンポジウム開催

2014年4月3日に土木学会国際センターの主催により「世界で活躍する土木技術者シリーズ」第1回シンポジウムとして「アジアとヨーロッパを結ぶ—ボスポラス海峡横断鉄道工事」を開催しました。

本シンポジウムは、日本の建設企業による海外大型プロジェクトが、当該国のみならず広く評価されている現状をとらえ、日本の土木技術および土木技術者の活躍を広く知っていただくこと、また将来の日本を担う若者たちにインフラ整備の意義や海外の仕事を伝えることを目的として企画、実施いたしました。



国際センター  
情報 Gr.担当次長  
鶴巻 栄光



橋本会長の開会挨拶

今回のシンポジウムは橋本土木学会長の開会挨拶に始まり、前半はプロジェクト

が行われたトルコと日本との友好関係について元駐トルコ日本国大使の田中信明氏によるご講演のほか、両国の関係や海外へのインフラ展開に関連したご講演をいただきました。また後半は実際にプロジェクトに携わった大成建設の近江秀味氏をはじめ6名の土木技術者の方々からプロジェクトの概要をはじめ、ご担当された工事についてエピソードを交えながらご講演をいただきました。講演の最後は、神田基氏により、若手技術者としての視点からプロジェクトに携わった経験や苦勞、そしてこれから活躍する若者へのアドバイスなどご講演いただき、閉会しました。

今回のシンポジウムでは上記講演のほかプロジェクト紹介DVDの上映やパネル展示が行われました。参加者は150名を超えたいへん盛会でした。

国際センターでは今後も海外プロジェクトを対象としたシンポジウムを実施する予定です。



講演会の様子



大成建設 近江秀味氏

## 日本・インドネシア土木技術セミナー開催報告

土木学会国際センターの活動として、平成 26 年 3 月 12 日(水)に東京土木学会講堂においてインドネシアおよび日本の専門家を招聘し、インドネシアの社会資本整備に関するセミナーを開催しました。日本側からは、官公庁、建設会社、設計コンサルタントなどから約 100 名の聴講者が訪れ、会場には椅子の追加を行う程の盛況となりました。

セミナーの概要は次の通りです。

### 《日本・インドネシア土木技術セミナープログラム》

- ・開会挨拶：土木学会 橋本鋼太郎会長
- ・講演 1：「インドネシアにおける社会資本技術」インドネシア公共事業省  
ヘルマント・ダルダック副大臣（インドネシア工学会土木部門長）
- ・講演 2：「都市開発と一体化した社会資本整備」筑波大学 石田東生教授
- ・講演 3：「スンダ海峡プロジェクトと地域開発」インドネシア公共事業省道路研究所 ヘリー・バザ所長
- ・講演 4：「インドネシアの魅力と可能性（日・尼共同研究から）」国土技術政策総合研究所 酒井利夫所長
- ・閉会挨拶 土木学会 磯部雅彦次期会長
- ・司会進行：土木学会国際センター国際交流 Gr. インドネシアグループリーダー 曾根真理氏



国際センター交流 Gr.  
インドネシアグループ リーダー  
曾根真理

### 1. 橋本会長からの挨拶

日本とインドネシアは、火山活動が活発で、地震が頻発するなど国土に共通の課題を有しています。また、国土はともに多くの島々からなり、長大橋梁によって国土を一体化することが求められています。

これらの課題解決に向けて、日本とインドネシアの土木技術者が協力することが望ましく、この度、ヘルマント副大臣を迎えて、成長著しいインドネシアの社会資本整備に関して土木技術者の交流が図られることは、両国にとって大変貴重な機会です。

### 2. ヘルマント副大臣の講演

インドネシアの経済成長を支えるために、社会資本整備が必要であるとの説明がありました。社会資本整備の課題としては、気候変動対策、急速な都市化への対応、経済格差の是正、地盤沈下など数多くあります。

インドネシア国内における道路、ダム、河岸堤など様々なプロジェクトについて、予算、図面、写真等を用いた説明がありました。これらプロジェクト実現のためには PPP スキームの活用が必要です。インドネシアにおいては、PPP 制度の改正等を行い強化に努めているところです。



満員の会場で講演するヘルマント副大臣

### 3. 石田教授の講演

都市の発展のためには鉄道整備と一体となった都市開発、即ち沿線開発が重要であり、阪急電鉄、東急電鉄、JR、つくばエクスプレスの取り組みを例に用いて沿線開発の実態について説明がありました。最後に、沿線開発の経験と手法を途上国の都市開発に利用していく用意があることについて説明がされました。



質疑応答中のヘリー・バザ所長

### 4. バザ所長の講演

スンダ海峡プロジェクトの課題と現状について調査結果に基づく地質の状況、火山との関係、国際航路確保の必要性などについて説明がありました。

スンダ海峡架橋は、インドネシアにとって重要なプロジェクトであり日本の長大架橋技術を必要としています。

## 5. 酒井所長の講演

日本・インドネシアの道路分野における共同研究について説明がありました。舗装、交通計測、トンネルについて共同研究を実施してきましたが、今後は道の駅についても共同研究が実施されます。



橋本会長からヘルマント副大臣への記念品授与

## 6. セミナー後の懇親会

セミナー後の懇親会にはインドネシアからの参加者 10 名を含む約 40 名の参加者があり、両国技術者の交流を深めることができました。

### 《感想》

総ての講演者が述べたのは、日本とインドネシアの類似性でした。これまでに蓄積してきた日本の技術をインドネシアで活かすことができれば、両国にとって意義のあるものになります。今後も両国の技術者間で様々な交流を続けることが必要であると感じました。

## 国際センターシンポジウム講演会

### 「日本の建設企業の海外進出を考える」第2回開催報告

教育グループでは、我が国の建設企業の海外展開へ向けた人材のグローバル化に対する支援活動の一環として、国際シンポジウム講演会を3回シリーズとして開催しております。今回はその第2回目として「海外で勝つために～市場の変化に応じた建設ビジネスモデルとは～」と題した講演会を開催いたしました。世界規模で活躍されている海外企業の方をお招きし、それぞれの企業の活動また海外展開についての考え方をご講演頂きました。当日は建設産業に携わる産官学より計66名の参加がありました。



講演会の様子 (Prinja 氏)

講演会の第1部では AMEC 社技術担当役員の Nawal K. Prinja 氏にご講演頂きました。イギリスを本拠地として幅広く世界で事業を展開する AMEC 社における海外展開戦略や海外展開する上で重要となる国際感覚を持つ人材の育成について事例を交えてご紹介いただきました。その後の質疑を含め活発な意見交換がなされました。



講演会の様子 (榮枝氏)

また第2部では、AECOM Japan の榮枝秀樹氏にご講演頂きました。AECOM 社における国際展開戦略に関する考え方や実際のプロジェクト事例をご紹介いただきました。また AECOM 社における人材育成プログラムを紹介頂き、日本企業および海外企業の両方におけるご本人の実務経験を踏まえた上で、日本企業が海外展開していくために必要な事項について氏のお考えを展開されました。日本企業が今後海外展開を図っていく上で克服すべき課題について、企業文化や日本と海外の慣習の違いなどの具体例を交えた講演内容に海外進出を目指す企業に属する聴講者の皆様は熱心に聞き入っていました。

第3回は4月22日(火)で、マッコーリーキャピタル証券会社より大橋 純氏、レンドリース・ジャパン社より岡 正信氏をお招きして開催しました。(国際センター通信第20号にて報告予定)

教育グループではこのような取り組みが、日本の企業で海外に進出を考えている方々の一助になると考えております。

【記 国際センター教育グループ】

## 国際センターの活動（土木学会会長 橋本 鋼太郎）

国際センターの活動の一環として、我が国の建設インフラ関連産業が海外市場において、活躍の場を広げ、世界市場で大いに存在意義を発揮していけるよう人材育成に努めています。

今回教育グループが中心となり、「日本の建設企業の海外進出を考える」と題して、国際シンポジウム講演会（3回シリーズ）を実施しました。

第1回は2月12日「現状と問題点から学ぶ建設業のグローバル展開と人材マネジメント」、第2回は3月17日「海外で勝つために～市場変化に応じた建設ビジネスモデルとは～」、第3回は4月22日「事業の多様化に向けて～海外企業の事業展開の現状～」をテーマとして開催されました。講師は海外企業または海外で活躍している日本企業の実務者であり、海外の建設市場の実態を理解するうえで参考になるものです。

次に大成建設が昨年完成させた、トルコのボスポラス海峡横断鉄道工事プロジェクトの偉業を土木技術者に広く理解してもらうべく、国際センターが中心となって4月3日に「世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ」の第1回シンポジウムとして、「アジアとヨーロッパを結ぶボスポラス海峡横断鉄道工事」報告会を開催しました。

報告会では元駐トルコ大使の「日本とトルコの関係」をはじめ、大成建設の技術者の方たちから「プロジェクトの意義」、「契約関係」や「技術紹介」などの講演が行われ、大変盛会でありました。

今後も「世界で活躍する土木技術者シリーズ」は続けて行きますので、積極的なプロポーザルを期待しています。

なお、本工事は日刊工業新聞社が43年にわたって続けています、日本産業技術大賞において内閣総理大臣賞を受賞しました。

## イベント情報

- 2014/5/22・・・講習会「パッケージ型インフラ輸出の促進に向けて～建設技術者が果たすべき役割～」  
主催：エネルギー委員会 エネルギーインフラ輸出促進小委員会  
会場：土木学会講堂（東京）  
(<http://committees.jsce.or.jp/enedobo/node/41>)
- 2014/5/29 - 30・・・第59回 ECCE 総会・ECCE 会議（グルジア・トビリシ）  
(<http://www.ecceengineers.eu/>)
- 2014/5/31・・・留学生向け企業説明会 主催：土木学会 会場：土木学会講堂（東京）  
(<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/52>)

## お知らせ

- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要を JSCE の website（英語版）にアップしました。  
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 36 が発行されました。  
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>



## ご協力のお願い

国際センターでは、国際活動に関する“情報発信の強化”を目標に掲げ「国際センター通信」を配信しておりますが、さらに配信先を拡大し、皆さまと情報を共有していきたいと考えています。

つきましては、皆さまより周囲の方々へ国際センター通信をご紹介いただき、国際センター通信の定期的配信を希望される方には、次の登録フォームよりご登録いただくようご案内いただけませんか。何卒、ご協力のほどよろしく願いいたします。

### 「国際センター通信配信希望者 登録フォーム」

- ・日本語版：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>
- ・英語版：[http://www.jsce-int.org/pub/registration/non-international\\_students](http://www.jsce-int.org/pub/registration/non-international_students)
- ・英語版（日本の大学等への留学経験をお持ちの方）：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/30>

## ◆掲載記事募集します◆

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。国内外の産学官界に所属する技術者、研究者、行政官および学生等に配信すべきと考える記事を投稿してください。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。

国際センター通信をより充実した、読み応えあるものにして行きたいと考えておりますので、ぜひ、ご協力くださいますようお願いいたします。

記事投稿の詳細はコチラ>>> <http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>

## Yの独り言

2カ月前に大阪のある町で、大きな土砂崩れが起きました。府道の横にある建設残土置き場に置かれていた残土が崩れて、道路の上、幅約200メートル、高さ3メートルにわたって広がりました。それにより周辺の1300の家々が1時間以上も停電に見舞われました。この騒ぎの前にも数回ちいさな土砂崩れが起きていたそうです。今回の土砂崩れは予期せぬ事故ではなく、不注意や無頓着が引き起こしたように思えます。一人のうっかり、怠け心、そして無頓着が、他の人にけがをさせてしまう。世の中、そんなものでしょうか？

【ご意見・ご質問】：JSCE IAC: [iac-news@jsce.or.jp](mailto:iac-news@jsce.or.jp)

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。

